

現代日本学社会分析研究演習 I / 現代日本学演習 III 「現代日本における社会問題の分析」

第4講 専門用語と理論体系

田中重人 (東北大学文学部教授)

[テーマ] 用語・概念と理論について

1 概念 (concept)

- 名称 (用語)
- 内包 (intention): どんな性質のものか → 定義
- 外延 (extention): なにが含まれて何が含まれないか
- 分類と境界事例
- アイデア (idea) と理想型 (ideal type)

2 理論 (theory)

統一的説明を与えるための体系的知識。通常、概念間の関連のかたちで表現される。

- 共通性の発見 (帰納: induction) と概念構築 (conceptualization)
- 単純化とモデル (model)
- 公理 (axiom: 検証されない前提) と演繹 (deduction)
- 予測 (prediction) と因果 (causality)

3 仮説 (hypothesis) と実証

世の中が実際にどうなっているかに関して

- 事実、データ、資料
- 直観 (intuition) と仮説構築
- 仮説検証と論理実証主義 (logical positivism)
- 観察と実験 (介入)
- 共同主観 (intersubjectivity) と社会的事実 (social fact)

4 規範 (norm) に関する議論

世の中はどうあるべきか、私たちは何をすべきか (すべきでないか) に関して

- 価値 (value) をどう扱うか
- 正当性と一貫性

5 具体的な論証 (argument) の形式

Toulmin (1958) のモデル

- Claim (結論)
- Data (論拠): 事実として観察できる事柄
- Warrant (保証): Data から Claim をなぜ導出できるか
- Backing (裏づけ): Warrant の根拠
- Rebuttal (反駁): 例外や誤差の指摘
- Qualifier (限定子): Claim はどの程度確からしいか

氏川 (2007)、青木 (2016) なども参照。

6 次回までの宿題

次の資料を作り、授業開始時間までに Google Classroom の「ストリーム」に上げておくこと。

- 各自の研究課題 (または適当な論文) について、専門用語を 5-10 個えらび、その定義と、相互の関係を示す
- その研究に関連したどのような「理論」があるか、ひとつ以上紹介

文献

青木 滋之 (2016) 「拡張型のトゥールミンモデル：ライティングへの橋渡しの提案」『会津大学文化研究センター研究年報』23: 5-24. <<http://doi.org/10.15016/00000135>>

佐賀県教育センター (2007) 「思考・判断力をはぐくむ小・中学校社会科学習のありかた：討論型学習で判断理由を明確にさせる意思決定場面の工夫を通して」 <https://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h19/h19syakai/gaiyou/gaiyou.htm>

Toulmin, Stephen Edelston (1958) *The uses of argument*. Cambridge University Press.

氏川 雅典 (2007) 「トゥールミンの議論モデルの変容: 批判から寛容へ」『ソシオロゴス』31: 1-19. <<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~slogos/archive/31/ujikawa2007.pdf>>